

穂村弘 × 町田康 × 川村裕子 × 大島武宙

●歌人・エッセイスト

●作家・本学特任教授

●研究者・本学客員教授

●歌人・文芸評論家・
本学専任講師 (寺井龍哉)

2025[令和7年]
8/1 13:00 ~ 17:00 金

会場

〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号
武蔵野大学武蔵野キャンパス 雪頂講堂

アクセス

各駅よりバスで
お越しください

JR中央線=吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅
京王井の頭線=吉祥寺駅
西武新宿線=田無駅
西武池袋線=ひばりヶ丘駅

入場無料



文学部と文学の
未来を考える対話
を行います！

文学は創作も研究も区別のない
一体のものであるはずです。

専門性の名の下に細分化が進み、
それぞれをつなぐ回路が

見えなくなった今、

創作と研究を、創作と創作を、

研究と研究を

つなぐ回路を「対話」の形で探ります。

武蔵野大学文学部創設60周年記念

シンポジウム

Dialogue between Creation and Research
: From the university education field

創作と研究の対話

大学教育の現場から

主催 武蔵野大学文学部日本文学文化学科
お問い合わせ

武蔵野学部事務課
042-468-3350

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



開催にあたって

武蔵野大学文学部は現在日本文学文化学科という一学科のみの学部ですが、上代から近現代まで各時代の文学、また漢文学や日本語学、書道そして古典芸能など、日本文学文化の全般をカバーする教育と研究を行ってきました。それと同時に、学部開設以来、文芸創作の教育にも注力しており、これまで著名な小説家や詩人歌人評論家が講座を開設して創作の指導を行っています。文学の創作と文学研究双方の専門家が揃い、双方を融合したカリキュラムを構築しているのは、文学部初代主任教授土岐善麿先生の時から続いてきた私たちの貴重な伝統であり、日本の大学の中では珍しい存在です。

昨年は本学創立百周年、今年は文学部創設六十周年にあたります。文学部としての歩みを振り返り、文学部と文学の未来を考えるために、文学の創作と研究を同時に展開することの可能性について、改めて考えたいと思います。

テーマに「創作と研究の対話」と掲げていますが、本来、文学は創作も研究も区別のない一体化したもののはずです。しかし現在では創作と研究が分業化し、互いの距離が遠くなっているようにも見受けられます。研究の分野でも、専門性という名の下に、時代別やジャンル別などと細分化が進み、それぞれをつなぐ回路が見えにくくなっています。文芸の世界でも、多様な媒体、表現形式で新たな作品が日々登場してきており、今日の文芸、文化の全体を見わたすことは、ますます難しくなっています。そして国語教育の現場でも、「論理国語」「文学国語」「古典探究」といったかたちで内容が細分化され、全体像が見えにくくなっています。いま、「創作」と「研究」のそれぞれのあり方を問い、その関係を考えることは、研究者、創作者、教育者にのみならず、言葉を扱うすべての人々にとって、意義のある課題ではないでしょうか。

そこでこの度、創作と研究にまたがるキャリアをお持ちの先生方をお迎えし、ご自身の活動やご経験を踏まえた上で、創作と研究を、創作と創作を、研究と研究をつなぐ回路を「対話」の形で探ってみたいと思います。

プログラム

13:00 開会の辞・来賓挨拶・趣旨説明

13:15 報告

大河ドラマ「光る君へ」の表現分析（川村裕子）

『万葉集』の研究と創作—折口信夫を例に（大島武宙）

（休憩）

14:20 創作と研究の対話（ディスカッション）

登壇者：穂村弘 × 町田康 × 川村裕子 × 大島武宙（寺井龍哉）

17:00 閉会の辞

交通アクセス

各駅よりバスでお越しください

JR中央線=吉祥寺駅・三鷹駅・武蔵境駅

京王井の頭線=吉祥寺駅

西武新宿線=田無駅

西武池袋線=ひばりヶ丘駅

詳しくは、

<https://www.musashino-u.ac.jp/musashino/>

でご確認ください。



登壇者



穂村弘

●歌人・エッセイスト

1990年に第一歌集『シンジケート』（沖積舎）を刊行。評論集『短歌の友人』（河出書房新社）で伊藤整文学賞、『鳥肌が』（PHP研究所）で講談社エッセイ賞、『水中翼船炎上中』（講談社）で若山牧水賞を受賞。対談集、評論集、絵本、翻訳などの著書多数。「現代短歌ノート」（「群像」）、「短歌ください」（「ダ・ヴィンチ」）など連載多数。



川村裕子

●研究者・本学客員教授

活水女子大学、新潟産業大学を経て現職。専門は平安時代の日記文学並びに文化。立教大学大学院博士課程修了。博士（文学）。著書に『蜻蛉日記Ⅰ』『蜻蛉日記Ⅱ』『はじめての王朝文化辞典』（角川ソフィア文庫）『平安女子の楽しい！生活』（岩波ジュニア新書）など多数。



町田康

●作家・本学特任教授

昭和三十七年、大阪府堺市生。高校卒業後、歌手を経て平成八年小説に転じ現在に至る。



大島武宙（寺井龍哉）

●歌人・文芸評論家・本学専任講師

武蔵野大学専任講師。歌人・文芸評論家。専門は『万葉集』など上代文学、近現代短歌。2014年に現代短歌評論賞を受賞、2020年度「NHK短歌」（Eテレ）選者。共著書に『万葉集の基礎知識』（角川選書）、『スペース短歌』（時事通信社）など。